

事業者の皆様へ

建設工事等における不備な入札金額見積内訳書の取扱い

入間東部地区事務組合では、建設工事等における入札時において入札金額見積内訳書（以下「内訳書」という。）の提出を入札参加者すべての方に求めています。

入札時に提出された内訳書の取扱いは、次のとおりとなっていますので、入札参加に当たっては、ご注意願います。

- 1 内訳書が未提出又は未提出と同等と認められる場合並びに記載すべき事項が欠けている場合は、当該入札を原則として無効とする。

<未提出又は未提出と同等と認められる場合の例>

- ① 内訳書の全部が提出されていない場合
- ② 内訳書の一部が提出されていない場合
- ③ 内訳書と関係のない書類が提出された場合
- ④ 他の工事の内訳書が提出された場合
- ⑤ 内訳書として提出された書類が白紙である場合
- ⑥ 当該工事に対応する内訳書が特定できない場合

<記載すべき事項が欠けている場合の例>

- ① 総額の記載のみで内訳の記載が全くない場合
- ② 工事名、業者名又は代表者名の記載がない場合

- 2 記載事項に誤りがある場合は、当該入札を原則として無効とする。ただし、明らかに軽微な誤記であると認められる場合は、無効としないことができる。

<記載事項に誤りがある場合の例>

- ① 工事名、業者名又は代表者名に誤りがある場合
- ② 内訳書の合計金額が入札金額と異なる場合
- ③ 内訳書の計算が間違っている場合